

「かたりつぎ～朗読と音楽のとき～ in いわき」を開催しました (2026/3/7)

テーマ：東日本大震災、伝承、かたりつぎ

会場：いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

東北大学災害科学国際研究所とかたりつぎ実行委員会は「東日本大震災の語りつく記憶かたりつぎ～朗読と音楽のとき～」を福島県いわき市で開催しました。東北大学のアーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」が東日本大震災の証言を取材し、詩の形に編集した証言を朗読します。朗読と音楽により、多くの人々の心へ届くような形で伝承しようという取り組みです。

朗読は俳優の竹下景子氏、音楽は詩人・谷川俊太郎氏の息子でジャズピニストの谷川賢作氏が務めました。竹下氏は「かたりつぎ」がスタートした 2012 年から毎年参加しています。谷川氏は、津波に浸水したものの修理して弾けるようになった旧豊間中学校のピアノで演奏しました。

今回は 4 つの証言が朗読されました。そのうちの一つは、震災当時 1 歳だった福島工業高等専門学校（現 福島大学）の学生 3 人による証言です。「記憶がないからこそ偏見なく知り、公平に伝えられる」「伝承施設を見学し、胸が締めつけられると同時に“再生”の強さも感じた」「災害に備えた建物をつくりたい、先を見通すことのできる技術者になりたい」などの思いが語られました。

当研究所からは栗山進一所長、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）が登壇し、災害伝承の意義と継続の大切さなどを述べました。



津波から復活したピアノを奏でる
谷川賢作氏



かたりつぎについて報告する
柴山准教授



クロージングにて。一番右が栗山所長、隣が竹下氏

文責：今野公美子（広報室）